

ジェンダーと暴力： 宅間被告の公判から

2003年5月12日(月) 午後1時～2時30分
南山大学D棟

大阪教育大付属池田小学校事件の宅間守被告をメディアは当初「精神障害者と犯罪」という枠組みでしきりに取り上げた。しかし精神障害者が犯罪を起す率は低い。収入や学歴が低いと犯罪を起こしやすいかといったらそんなこともない。外国人の犯罪率が高いというのももちろん誤解である。犯罪者がどんな人なのかを特定することは難しい。

犯罪者のプロフィールで唯一きわだっていることは、それが男性だということだ。犯罪者は男性が圧倒的に多いことを人は半ば当然のこのように知っている。殺人、強盗、詐欺窃盗のほとんどの容疑者は男性である。統計を見るとその事実は一層あきらかになる。男性のほうが暴力をふるいやすいという事実はあたりまえのこととして受け入れられているが、暴力性の性差に注目した研究を目にすることは少ない。犯罪学という学問の分野でもジェンダーと犯罪の関連を論ずる研究は少ない。

わたしは「ジェンダーと暴力」というテーマをライフワークのひとつとしている。事件の翌日の報道を読んだとき、これは「精神障害者と犯罪」ではなく「ジェンダーと犯罪」という視点からしっかりと検討されなければならない問題だと強く思い、以来この事件を追い続けている。ジェンダーは被告が人生の中で繰り返して来た暴力加害行動にどう影響を与えたのか。それをわたしたちはこの事件から学ばなければならない。

講師 エンパワメント・センター主宰 森田 ゆり

早稲田大学卒、米国GTU大学院修士卒。北米に21年間在住し、子ども、女性への暴力防止に関わる専門職の養成に長年携わる。その後カリフォルニア大学主任研究員として、人種差別、セクシュアル・ハラスメント、アフターマティブ・アクションなど人権問題の研修セミナーの開発と指導に7年間携わる。日本にCAP(子どもへの暴力防止)プログラムを導入。現在は日本でエンパワメント・センターを主宰し全国で研修活動をする。著書に「聖なる魂」(朝日文庫)朝日ジャーナル・ノンフィクション大賞を受賞、「あなたが守るあなたの心、あなたのからだ」(童話館出版)産経児童文化賞を受賞、「子どもと暴力～子どもたちと語るために～」(岩波書店)、「ドメスティック・バイオレンス」(小学館)、「多様性トレーニング・ガイド～人権啓発参加型研修の理論と実践～」(解放出版社)、「子どもの虐待」(岩波書店)等多数。

